



「誠実・実行・志し！」

元東伊豆町議会議員 須佐まもる

バックナンバーはホームページで！

イソブキ便り！ No.14 平成29年3月1日発行

須佐まもる後援会 〒413-0302 静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本 1496 18  
Tel&Fax 0557-23-3501 / 080-3458-0925 E-mail:mamo@knossos.jp

「須佐まもる  
後援会」で検索  
しよう！！



皆様、ご無沙汰して  
おりました！

2年前の県議会議員選  
挙に落選して以来、皆様に  
はなにかとご心配をお掛  
けしていたかと思えます。

あの選挙で、賀茂郡全体  
ではダブルスコアで敗れ  
ましたが、東伊豆町では2  
482票対2474と、8  
票差ではありませんが上を  
行きました。この結果に当  
然満足しているわけでは  
ありませんが、東伊豆町の  
皆さんが私に期待してく  
れているという気持ち  
が伝わってきました。

私はこの結果を真摯に  
受け止めたいと思いまし  
た。そして、いまの充電期  
間にできるだけ多くの  
人と接し、民間に身を置く  
こととして精一杯できる  
ことをやりたいと思いま  
した。私はいま、ペンシ  
ョン経

営の傍ら、マックスバリ  
ユのコミュニケーション副店長と  
して伊豆高原店と熱海多  
賀店に勤務しています。あ  
の選挙の際、マックスバリ  
ユの労働組合は見ず知ら  
ずの私を推薦してくれま  
した。その恩返しの意味も  
込めて働いています。  
(その他、テレワークの会  
社にも籍を置いています。)

### 「東伊豆ふるさと大学」 で地域活性化を

公職を離れてからは、今  
の自分ができる最大限の  
ことをして、地域貢献を  
したいと思いました。正直、  
議員であると自由に活動  
ができません。目立つこと  
をすると目を付けられ圧  
力が掛かります。また立場  
上、行政の補助を受けて活  
動をすることも自粛を求  
められます。私はそのこと  
に疑問を抱くこともあり

ました。町民の皆さんから  
期待を寄せられ当選した  
のに、行政に働きかけると  
「議員なのに何をしてく  
るんだ」と。

確かに、かつて政治家の  
不正が東伊豆町を窮地に  
陥れたのは確かです。しか  
し、政治の仕組みを熟知し、  
襟をただして活動をすれ  
ば、政治家のリーダーシッ  
プは地域活性化に必ずつ  
ながると信じていました。  
前置きが長くなりました

「東伊豆ECOツーリス  
ム協議会」を立ち上げまし  
た。これは、小規模宿泊業  
者や自然体験をメインに  
観光を考える事業者を中  
心に、自然や歴史・文化と  
いったこの町の本来持つ  
ている良さを観光政策に  
織り込むことを目的とし  
た団体です。  
「エコツーリズム」とい  
うのは、東京都知事の小池

百合子さんが環境大臣の  
ときに提唱したものです。  
私はエコツーリズムがこ  
の町の観光を変えると信  
じてきました。しかし、町  
に働きかけましたがほと  
んど無視され積極的に関  
わってくれませんでした。  
そんな中、静岡県は「魅力  
ある観光地推進事業」とし  
て支援してくれ、3年間で  
30ほどのツアーをつく  
り、モニターツアーを実施  
しました。



本林(ほんばやし)石丁場を巡るツアー。町有地内にあるためこれからの開発が期待される。

特に力を入れたのは江  
戸城築城跡を素材とした  
ツアーで、徳造丸本社横の  
本林石丁場を世に出すべ  
く活動し、いずれは国指定

の石丁場に仕立てていき  
たいと考えています。

また、移住定住への取り  
組みも積極的に進めまし  
た。これは、東伊豆町の自  
然や環境の良さをPRし  
てて移住を考えてもらう  
というコンセプトで、県の  
賀茂地区ふれあい事業推  
進協議会のメンバーとし  
て、ツアーを企画しました。



1回目のツアーには20名が参加し、観光農園やお試し移住施設などを回りました。懇親会では思い思いの夢を語りました。

## 熱川中で、学校支援ボランティアとして活動

熱川中学校の校長先生  
の方針で、地域住民が学校  
支援ボランティアとして  
教育活動に携わる取り組

みが始まりました。これま  
で小学校で読み聞かせボ  
ランティアを続けてきま  
したが、引き続き中学でも  
行われることになったの  
です。

私もさっそく入らせて  
いただきましたが、中学生  
へ読んで聞かせる本とい  
うのは難しいです。他にも  
小学生のとき柔道をやつ  
ていた経験から、体育の授  
業をサポートしています。



読み聞かせの様子。開かれた学校の取り組みに協力していきます。

## 別荘地の防災訓練

自治会の防災訓練に参  
加しました。私は地元の奈  
良本地区の自治会に入っ

ていますが、別荘地に住ん  
でいるということもあり  
「三井大林熱川別荘地自  
治会」にも参加しています。  
ちなみに別荘地は6区に  
分かれていて、私は2区の  
役員を務めています。

風車の騒音問題があつ  
てこの自治組織ができま  
した。その後、住環境の改  
善とか買物送迎、“なんでも  
屋”などの自治運営を重  
ね、同好会などレクリエー  
ションも多種多様です。

別荘地内の高齢化が進  
むとともに、防災に対する  
意識も高まり、町の消防署  
の職員を講師に招き防災  
訓練を行うことになりま  
した。高台にあるため津波  
などの被害はないのです  
が、それこそ山津波や火災  
には気をつけなければな  
りません。今回有意義だつ  
たのは、消火訓練や煙の中  
を歩く体験、そして消火栓  
を開けてホースをつなぐ

訓練を体験できたことで  
す。



会員のガレージを借りて消火訓練や煙の中での避難法を体験しました。

話は別ですが、中学校の  
部活でバスケットを教え  
てた子が消防署に入つて  
立派にやっています。うれ  
しく思いました。彼とは大島  
の災害ボランティアでも  
一緒でした。

「移住者の移住者によ  
る移住者のための自治運  
営」が、住民によってなさ  
れていることが大切で、先  
進的な別荘地として移住  
先に選ばれるでしょう。

(2015/12/5)

## 念願のNPO設立

特定非営利活動法人「全  
国まちづくりネットワーク」  
東伊豆支所の開所式を  
町役場で行いました。

「東伊豆町にNPO法  
人を！」私がずっと取り組  
んできたことでした。念願  
がかないました。しかし、  
これからは勝負です。これ  
まで取り組んできたエコ  
ツーリズムの事業と、町が  
育んできた歴史や産業遺  
産、とりわけ江戸城の築城  
石を保存・PRしていく事  
業。教育旅行や移住定住化  
の取り組みを進めていく  
ことが大切と考えます。

この日はまちづくりネ  
ット本部から、代表理事の  
山口佳宏様はじめ関係者  
の方と、来賓として太田長  
八町長をお招きしご挨拶  
を頂戴しました。ご参画い  
ただける方の自己紹介の  
後、まちづくりネット理事  
で、元稲取観光協会事務局  
長の渡邊法子様より、「ま

ち・ひと・しごと創生総合戦略」と題してご講演をいただきました。

(2015/12/20)



ご参画いただける方をお待ちしております。みなさんで頑張ってください！

## 大島へ小旅行

稲取との間に定期航路が復活した大島へ日帰り旅行に出掛けました。定期航路が終わった平成15年以来です。フリープランでバスを乗り継いで大島観光を満喫しました。

3年前、災害ボランティアで訪れたときは自衛隊員の基地になっていた元町港のターミナルは、椿ま

つりの観光客でごった返してました。東京からの便はすべて満席だったようです。リュックを背負ったシニア層は、大島シオパークのツアーに参加していました。

今回の旅を通じて印象に残ったのは、行くところどころで出迎えてくれたあんな姿の女性たちです。聞けば高校生のアルバイトだそうで感心しました。手踊りを披露してくれたのは婦人会の奥様たち。“ミス大島”ではなくても島の観光にしっかり従事していました。

稲取港経由で熱海に向かう帰りの船は満席状態でした。稲取で降りるのは少数かと思いきやほとんどが下船してびっくり。見ればふ頭には大型の観光バスが3台も迎えに来ていました。しかし、お出迎

えは誰もなし、雛のつるし飾り祭りのシーズンだけに、もつ少し考えてよさそうだと思いました。

稲取航路復活は東伊豆町の悲願であったはず。観光客にとって地元の出迎えは何よりも心がほっとするはずです。通年の定期航路を確保するためには、おもてなしの心をもっと磨いていく必要があります。

(2016/2/11)



卒業後は土地を離れて首都圏に進学すると話してくれました。同じ年の娘を持つ親として感慨深いです。

## キンメ馬拉ソンのボランティアに参加

6月11・12日に行われた「稲取キンメ馬拉ソン」の優勝者に贈るオリブの冠作りをお手伝いをさせていただきました。稲取の女性は団結力がありません。ダイバーシティの時代、町を何とかしたいと思う気持ちには性別を問いません。いや、実行力は女性の方が上ですね！



伊東からも応援に来てくださり楽しい時間でした。「ママ友」が政治を動かす時代です！

## 災害ボランティアに力を入れよう

災害ボランティア協議会の本年度の総会が開かれました。「ボランティア

元年」といわれた阪神淡路大震災から21年。助け合い支え合いを旨とする日本人が、東日本大震災でその活動を確信し、熊本大震災でゆるぎない形にしたこの制度も、災害が遠のいている町のモチベーションは下がっています。

現状、地震や津波はもちらん、豪雨災害の危険性も隣り合わせです。また、稲取・熱川をはじめとする観光地を控えていることから、有事の際には的確な対応が求められます。しかし今回、災害ボランティアとして活動を続けていきたという意思を持っているコーデイネーターが67人中32人に半減しました。総会の参加者も寂しい限りです。今後、多くの方の活動への参加を臨みます。

総会の第2部では、東京



都大島町社協の鈴木さんが講演に来てくれました。3年前の豪雨災害のとき、微力ですが協力させていただきました。その際のことをついこの間のことのように聞きました。今年、椿まつりの際に復興の様子を見ましたが、大島町と東伊豆町は海を隔てて隣同志ということもあり、さまざまな部分で協力体制を築いていくことが必要でしょう。

(2016/7/27)

## 大学生のフィールドワークで講演

群馬県の関東学園大学の学生さんが、熱川地区の産業を学ぶ取り組みが今年から始まり、奈良本の観光農園「丸鉄園」を舞台にフィールドワークを行っています。9月は町の現状

を知るキーマンをゲストに呼び、地域の抱える課題や将来に向けての展望などを語ってもらい、それを受けて学生たちがどうこの地域に関わっていいのか、それぞれレポートを作成することになっています。

私もまちづくりへの思いや、エコツーリズムについて話をさせてもらいました。学生を前に話するのは何だか懐かしい気がしました。質問も多く受け、あらためて外からの視点の大切さを知りました。彼らといい取り組みができるといいですね。

東伊豆町では熱川温泉で工學院大学が、稲取では芝浦工大の学生さんがそれぞれテーマにもとづいて学んでいて、地域活性化に一役買っています。  
(2016/9/17)



産学官が連携して地域活性化を進める取り組みが今後広がっていくかもしれません。

## 災害ボランティア本部の立ち上げ訓練に参加

河津の災害ボランティア本部の立ち上げ訓練に参加しました。東伊豆町とはつきりレベルが違うと脱帽しました。どうしてこども違うのか、まず第一に町の取り組みが違う。町長自らがあいさつをし、災害ボランティアネットワークたちを激励する。これは先日の下田市の訓練でも同じことがいえます。何でもないことに見えますが、自治

体がどれだけ防災に力を入れているかがうかがえるのです。東伊豆町は、今年度から総務課の防災係が課に格上げされ、それだけ権限も強まりました。しかし、何が変わったのかがよくわからない。

この日は河津町の町議会議員も3名スタッフとして関わっていました。下田でも議員や青年会議所のメンバーが中心になって運営に携わっています。実際に災害に遭遇したとき、本部を動かしていくのはパワーがある若手。それに自主防災の各区の方たちが関わることで鬼に金棒になります。なぜなら、災害時にボランティアを要請する住民(ニーズ)を一番知っているのは班であり区であるからです。

この日の河津町の災害ボランティアは30名(私の

ような他市町の災ボラコーディネーター(応援含む)、各区の自主防災員70名、あわせて100名が訓練に参加しました。それに對し東伊豆町で開催したときは20名いなかったのでしよう。その半数は他市町からの応援スタッフです。これでは何かあったときに対応できません。

新規講座を開き、一人でも多くの方に災害ボランティアコーディネーターになってもらいたいと思います。災害が起きてからでは遅いのです。

(2017/1/29)



災ボラの事務局は社協になるが、やる気具合がボラ本部の立ち上げに大きく影響します。